

佐賀県

進出企業が高く評価する 抜群の交通利便性や人財力

九州の北西部に位置し、有田、伊万里、唐津など陶磁器の産地としても知られる佐賀県。近年、ビジネスの場としても注目の的だ。その理由について山口祥義佐賀県知事に聞いた。

多種多様な企業が
実感するその価値

「真面目で粘り強い人が多く、離職率も業界平均に比べてかなり低い」「どこへ行くにも便利で、しかも暮らしやすい」「台風や水害が少なく、BCPの観点からも注目の場所」。

進出企業から、例えばそうした声が寄せられるのが佐賀県だ。しかし、数ある国内の事業エリアの中で、佐賀県について明確なイメージを持っている企業は必ずしも多くないかもしれない。

山口祥義佐賀県知事はこう話す。「実際に事業活動をスタートされると、さまざまな業種の企業の皆さんがその価値を実感していただきます。一度拠点を置く佐賀県のファンになられる会社が多い。これが佐賀県なんです」

付き合うほどに魅力が増していく。



山口 祥義
(やまぐち・よしのり)
佐賀県知事

平成元年東京大学法学部を卒業後、旧自治省(現 総務省)に入省。多くの自治体、省庁への出向、民間交流で経験を積み、平成27年1月より現職。

そんな佐賀県の魅力を支えるのが、抜群の交通アクセスだ。

「高速道路や鉄道がクロスする位置にある佐賀県はいわば九州における交通の要衝。高速道路を使えば、福岡、長崎、熊本は一時間圏内、九州全域、中国地方も三時間圏内です」と山口知事。加えて現在、県北西部と福岡市を結ぶ西九州自動車道や有明海沿岸道路の整備も進む。

空路については、今年愛称を変更し

た「九州佐賀国際空港」。二〇一五年の利用者数が六〇万人を突破し、地方空港の中では高い伸び率を誇る。羽田便、成田便、上海便のほか、夜間貨物便も就航している。

「私自身、出張などでよく利用しますが、佐賀市内からクルマで約二〇分と近く、無料駐車場も一六〇〇台分確保しており、普段使いのできる空港です」さらに空港については、福岡空港、長崎空港も佐賀県から十分に利用圏内

抜群の交通インフラと注目の工業団地



「新産業集積エリア唐津」がある。有料道路のICに隣接し、空港や港へのアクセスも良好。強固な地盤の広大な用地(八ヶ)が整備されており、精密機器などの製造にも適している。

同様に、「新産業集積エリア有田」も西九州自動車道のICがすぐそばで、伊万里港へのアクセスにも優れている。企業のニーズに応じて、オーダーメイドで開発可能な点も魅力である。

また、圧倒的な交通利便性を誇る鳥栖エリアでも「新産業集積エリア鳥栖」で、二二ヶの開発計画が進む。二〇二〇年度以降分譲開始予定となっている。「いずれも自信を持ってお勧めできる質の高い工業団地。サポート体制も充実していますので、まずはご要望をお聞かせいただきたい。そして用地検討の際には、県内の優秀で豊富な人財

にも、あわせて注目してほしい」と山口知事は付け加える。冒頭に紹介した企業からの声にもあ

ったとおり、ビジネスの場として佐賀県を見たときに見逃せないのが、その人財力だ。

「会社の経営も突き詰めれば、すべては人に行き着きます。四〇〇年の歴史がある有田焼に代表されるものづくりのDNAを持ち、幕末から明治にかけては最先端の技術力で日本の近代化を支えてきた佐賀県人。その根底にあるイノベーションな精神は、多くの企業の今後の成長を後押しする原動力になると信じています」

交通インフラや事業用地といったハード面と事業活動を支える優れた人財が揃った佐賀県。新たな事業拠点を探している企業にとっては外せない最有力エリアの一つといえそうだ。

Q・C・Dのバランスが取れた立地戦略を



小沢智樹
中央ビジネス研究所(株)代表

企業が新たな拠点を形成するときには、Q(クオリティ)、C(コスト)、D(デリバリー)のバランスが重要。どのレベルの製品・サービスを、どの程度のコストで生産、提供するのかが、それをいかに顧客に届けるか。その戦略に基づいて進出先を決めるわけです。デリバリーに関わる交通インフラを見る際は、モノの移動はもちろん、人の移動も考慮すべき。交渉や会議をはじめ、事業活動には人の移動が伴うものです。

また、特に海外とビジネスを行う企業にとっては、空路、海路の利便性もポイントとなるでしょう。取引先や製造拠点などと直接つながる便があるかどうかで、ビジネスの効率は大きく変わってきます。立地戦略は事業戦略の要。その重要性はますます高まっています。